

武士道 CHALLENGE ポイント制ルール【2026 改訂版】

第 1 条：【試 合 場】

試合場の広さは、畳敷きで一辺が 8 メートル、場外を各辺 2 メートル含む 10 メートルの正方形とする。

第 2 条：【競技時間】

本戦 2 分とし、延長戦は行わない

第 3 条：【審 判 団】

- ① 審判団は主審 1 名、副審 3 名により構成される。
- ② 主審は、競技を管理する権限を持つ。競技の開始、中断、終了を告げる。また、選手に懲罰を課す事が出来る。なお、主審の権限は競技場に極限されず、その周辺にも及ぶ。
- ③ 副審は、旗等の合図により主審を助け、意思を表示する。

第 4 条：【種 目】

- ① 小学生ポイント制ワンマッチ（男女混合）
- ② 中学生男子ポイント制ワンマッチ
- ③ 中学生女子ポイント制ワンマッチ
- ④ 一般男子ポイント制ワンマッチ（高校生以上）
- ⑤ 一般女子ポイント制ワンマッチ（高校生以上）

第 5 条：【組 合 せ】

ワンマッチの部においては、選手の年齢、身長、体重等を考慮し、編成するものとする。

※申込時の体重測定は、各参加団体が責任を持ち計測し、申込すること。

第 6 条：【主な有効技とポイント・試合進行】

- ① 反則行為（第 8 条-①）以外の突き、打ち、蹴りによる打撃技とする。
- ② 攻撃を相手に確実に当て、防具がないと想定した場合にダメージになり得ると判断された攻撃を「有効」としこれを 1 ポイントとする。ローキックに関してはダメージを与えた場合 1 ポイントとする。また、その打撃の威力が有効以上と認められた場合は「技あり」=2 ポイント、「1 本」=3 ポイントを与える。それぞれのポイント数は試合場正面のポイントカウンターで表示される。
- ③ ポイントの判断は、主審の判断及び副審 3 名の旗挙げによってジャッジを行う。副審 3 名のうち 1 名でも有効と判断した場合、且つ主審もその判断を認めた場合ポイントを与え、選手双方の攻撃が同時に有効と判断された場合（旗 1 対 1）は、両者にポイントを与える。ただし、副審の判断が（旗 2 対 1）となった場合、複数の副審が有効と判断した選手にのみポイントを与える。

- ④ 主審又は副審が「有効」またはそれ以上と認めた技が入った場合、主審は「待て」、副審は号笛と共に旗にて意思を示す。主審は試合を中断しその場で判定を下す。警告、注意等を与える場合もこれに準ずる。

第 7 条：【勝敗の決定】

- ① K.O. 勝ち／正当な攻撃によりダウンさせた場合。（ダウンした選手がすぐに立ち上がった場合でも 1 ダウンで K.O. となる）
- ② T.K.O. 勝ち / a__ 8 ポイント先取した場合
- b__ 主審が試合続行不可能と判断した場合。（特に頭部へのダメージ）
- c__ 正当な攻撃を受け怪我を負い、主審あるいは大会ドクターが試合続行不可能と判断した場合。但し相手の反則攻撃による怪我の場合は反則を犯した選手が敗者となる。
- d__ 試合進行中に選手が試合を放棄した場合、又はセコンドがコート内にタオルを投入した場合。
- ③ 優勢勝ち／ 試合終了時に、より高いポイントを取得した選手の勝ちとする。
- ④ 引 分／試合終了時に、両選手とも同じポイントだった場合、引分とする。
- ⑤ 棄 権／試合開始前に試合を放棄した場合。
- ⑥ 反則負け／反則を犯した場合、又は主審の指示に従わなかった場合「口頭注意」、次に「警告」を与え、その後の行為から「注意 1」を与える。「注意 2」で反則負けとする。但し、目に余る場合は即反則負けとする。
- ⑦ 失 格／主審の命令に従わなかった場合、競技規定及び精神に反する行為と判断された場合、失格とする。又、選手集合時間に遅れた場合も失格となる場合もある。失格を受けた選手は今後、本大会に出場できない場合もある。

第 8 条：【反 則 行 為】

- ① バックハンドブロー、カーフキックは禁止する。
- ② 故意の有無に関わらず、肘打ち、顔面への膝蹴り、金的への攻撃、頭突き、転倒者への直接加撃、投げ技（足払い可）、タックル、背後からの攻撃、その他打撃技以外の粗暴な行為。
- ③ 手や体で相手を押す事・掴み（蹴り脚を掴む事も禁じる）、選手・コーチ側に対する悪質な態度・行為・暴言、故意にコート外へ出る、試合中ダメージを与えられないと思われる無気力な攻撃、虚偽申告

第 9 条：【防 具】

- ① 小学生は、面、グローブ※.1、レッグガード（革製可）、膝パット（布製）、男子はファールカップ、女子はアブスメントガードを着用のこと。また、ボディプロテクター（主催者用意）については、女子の着用を義務付け、男子の着用は任意とする。
- ② 中学生は、ヘッドギア（インナーバー/主催者用意）、マウスピース、グローブ※.1（バンテージ可）、ボディプロテクター（主催者用意）、レッグガード（革製可）、膝パット（布製）、男子はファ

ールカップ、女子はアブスメントガードを着用のこと。

- ③ 一般男子(高校生以上)は、ヘッドギア(インナーバー/主催者用意)、マウスピース、14oz グローブ(バンテージ可)、レッグガード(革製可)、膝パット(布製)、ファールカップを着用のこと。
- ④ 一般女子(高校生以上)は、ヘッドギア(インナーバー/主催者用意)、マウスピース、14oz グローブ(バンテージ可)、ボディプロテクター(主催者用意)、レッグガード(革製可)、膝パット(布製)、アブスメントガードを着用のこと。
- ⑤ 防具は衛生上の理由から、基本的には個人の物を使用のこと。但し、著しく損傷(グローブのクッションの程度等)の激しいもの、また防具規定に合わないものと係員が判断した場合は主催者用意の防具を使用のこと。

※.1 グローブは-35kg=8oz、-50kg=12oz、-75kg=14oz、+75kg=16oz

第 10 条：【試合態度】

- ① 武道の試合に相応しい態度をとる事。
- ② 互いに尊重の念を持ち相対する事。
- ③ 試合会場においても、上記内容を順守する事。

第 11 条：【応援】

- ① 選手の応援は、武道の試合に相応しい態度である事。
- ② 応援団は、選手の試合中にコートの中に入ってはいけない。
- ③ 相手選手、コーチ側を誹謗中傷する様な掛け声、野次、罵声等を飛ばしたと審判が判断した場合、選手に「注意 1」を与える場合もある。

第 12 条：【異議の棄却】

選手又は所属団体は、審判員の宣告に対して、一切の異議申し立てを行うことは出来ない。

第 13 条：【救護並びに処置】

大会は救護を設け、試合中の負傷・事故についての応急処置は行うが、その後については各自自弁とし、試合中に生じた負傷・事故については主催者側・主管者側に一切請求しないものとする。従って、選手等は各自でスポーツ保険その他に加入した上で参加申し込みをする事。

第 14 条：【附則】

- ① 2018 年 11 月 24 日制定
- ② 2024 年 8 月改訂
- ③ 2026 年 8 月改訂